

令和８年度 関市スポーツ推進審議会（要約）

日 時：令和８年６月２５日（木）１３時３０分～

会 場：わかくさ・プラザ学習情報館 ２－１研修室

参加者：喜久生明男（きくいけ整形外科 名誉院長）

小野木 卓（関市スポーツ協会 会長）

黒井 秀雄（関市自治会連合会 副会長）

川嶋 英司（関市スポーツ少年団 本部長）

大野 照美（関市スポーツ推進委員会 会長）

桑原 直樹（キウイスportsクラブ 理事長）

長瀬 祐子（関市スポーツ推進委員会）

欠席者：水野かがみ（中部学院大学 スポーツ健康科学部教授）

山田 真司（関市小中学校校長会 会長）

（委嘱状交付）

（教育長あいさつ）

森教育長：皆さんこんにちは。この度は令和８年・９年の関市スポーツ推進審議会の委員となつていただき、ありがとうございます。今年度は第２期関市スポーツ推進計画の中間見直しの年度です。国の第４期スポーツ基本計画の方向性を踏まえ、市民の健康増進や豊かな生活につながるスポーツ施策の推進により一層、力を入れてまいります。また、中学校部活動の地域移行は休日について実施された一方、少子化による部員減少、保護者の送迎負担や運営費の確保、文化系活動の受け皿不足、指導者の育成・研修など多くの課題がありますが、少しでも解決しながら進めていきたいと思っています。また、かわせみスタジアムの第３種公認陸上競技場取得記念として、９月１２日に「真夏の夜の陸上フェスタ」を実施します。１１月２２日の刃物まつりシティマラソンでもＰＲし、かわせみスタジアムの利用促進を図ります。本日はよろしくお願いします。

（会長及び副会長の選出）

事務局：次第に沿って進めます。今回の会長及び副会長の選出について、関市スポーツ推進審議会条例第４条第１項で、審議会に会長及び副会長を置き、委員の補選により定めるとございますが、選出にあたりまして、どなたかご意見がある方はございませんか。

委 員：事務局のお考えを聞きたいです。

事務局：事務局案とのご意見をいただきましたが、事務局から提案をさせていただいてよろしいですか。それでは、事務局からの提案といたしまして、会長に関市スポーツ協会会長の小野木様、副会長に関市スポーツ少年団本部長の川嶋様をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。ありがとうございます。それでは、会長に小野木様、副会長に川嶋様と決定させていただきます。任期は令和１０年３月３１日までとなりますが、どうぞよろしくお願いします。続いて会長となりまし

た小野木様に会長の挨拶をお願いいたします。

(会長あいさつ)

会 長：ただいま皆様から承認いただいた小野木です。何分よくわからないままの立場での就任ですが、精一杯努めます。よろしくお願いします。

事務局：ありがとうございました。それでは議事に移りますが、関市スポーツ推進審議会条例第5条第1項に、審議会の会議は、会長が議長となるとありますので、会長の小野木様に議長をお願いいたします。併せて、関市スポーツ推進審議会条例第5条第2項の規定により、本会議は、委員の半数以上の出席が必要となっておりますが、本会議には半数以上の7名の委員の皆様にご出席いただいておりますので、本審議会が設立することを報告させていただきます。

(議事：第2期関市スポーツ推進計画の点検と評価について)

事務局：(第2期スポーツ推進計画の点検と評価について説明)

会 長：スポーツ推進計画の点検と評価の説明が今の内容ということですか。

事務局：そうです。7年度の実績からの評価です。7年度の実績は、お配りした生涯スポーツ事業計画の資料中で、各イベントの参加人数など利用者数を集約したものです。

会 長：説明いただいたのは、この内容の合計が示されているということですね。

事務局：はい。対象となるものを抜粋したものです。

会 長：資料を見てすぐ意見を出すのは難しいと思いますので、2、3分時間を取りますので、ご意見をまとめてください。

委 員：7ページの「自然と冒険スポーツ村」を知りませんでした、どこにありますか。

事務局：板取で実施されているバイクトライアルとバスケットボールのウインターリーグで、昨年度からバイクトライアルがなくなり、大会のエキシビションでマウンテンバイクのパフォーマンスを行う形に変わったので、スポーツとしてはバスケットのウインターリーグのような形で板取ふれあいまちづくり委員会が中心になってやっているイベントです。

委 員：ありがとうございます。

事務局：生涯スポーツ事業計画の10ページに内容が載っています。

事務局：資料7ページの基本目標4を補足します。「スポーツを『つくる』『はぐくむ』」では、地域ごとのスポーツブランドの創出を目指しています。現在、スポーツブランドとしてスポーツ推進課が認めているのは「ラグビーフットボールフェスティバル」と「武儀地域のカラーリング」の2つで、今後は施策として挙げる事業をどの段階でブランドとして位置付けるかが課題です。ブランドとして認めるには、行政の支援に頼らず自立した大会運営ができることを一つの目安としており、「ふどうの森」はその段階に近づいています。一方、「自然と冒険スポーツ

村」や「3×3」は地域事務所の支援が大きく、現時点では地域ブランドとして位置付けるには検討が必要だと思います。

委員：関市は刃物のまちですが、ゴルフの関市というイメージもあります。関市民ゴルフ大会も毎年行われていますし、ブランド化してはどうでしょうか。

事務局：スポーツ協会が主導しているので、どの段階でブランドとするかの判断が難しいです。カローリングやラグビーフットボールフェスティバルのように、地域で自立した運営ができていることが判断の基準です。

会長：ほとんど身内のようなスタッフでずっと続けているので、中間反省がより意味のあるものにするために、もう少し実感のある言葉で説明してほしいです。例えば、3、4、5ページの数値で「達成した」「達成していない」という言葉だけでは、それでいいのかどうか私たちにはよくわかりません。事務局でこの数値の算出作業に当たっている担当の皆さんが、それぞれの数値に対し、どのような意味があるとか、偶然こうなっただけで成果とは言い難いかもしれないというような感想を、全ての数値に対してでなくていいので付け加えていただけると、委員の皆さんも意見を出しやすくなると思いますが、事務局いかがでしょうか。

事務局：4ページの基本目標で、5年前の基本計画作成時に設定した参加者人数の目標値を記載していますが、人口減少の中で参加人数が本当に増えるのか事務局側として疑問には思います。刃物のまちシティマラソンの例だと、当初、令和4年の参加者は2,300人ほどでしたが、陸上競技場の改修工事もあり、令和7年度はジョギング大会となって500人と、一気に減少しています。またシティマラソンの参加者は7～8割が市外の人です。この数字が本当に関市のスポーツ推進計画の中で意味があるのか疑問視するところもあります。ただ事務局としては、10年計画の5年目で目標数を変更することによって、前の5年が無駄になってしまうような感じにはしたくないと考えており、なるべく同じ数字を使って意味を持たせたいと思っています。5ページの「見るスポーツ」に関して、競技大会の誘致件数の目標数値がありますが、インターハイなどは誘致ではないので、目標値に入らないように思います。相撲は入っていますが興行なので、スポーツ競技大会には該当せず、数は増えていません。6ページのスポーツ少年団の指導者数の目標値も、少子化が進む中で数値が上向くのか、この目標値でいいのかという疑問もあります。スポーツ推進委員の活動延べ人数の目標値も、2年に一度の改正時に在籍しているスポーツ推進委員の人数が大きく影響するので、スポーツ推進委員自体の数を増やさないと、この2,000という目標も達成は困難ではないかと思っています。

委員：スポーツ推進委員の定数は50人となっていますが、実際は38人、その中で常時活動しているのは20人ぐらいです。原則各地域から3人ずつ選ばれることになっていますが、実情は偏りがあるので、それを是正する必要があると思います。報酬はありますがほとんどボランティアなので、一部の人に負担がかからないよう、ボランティア精神のある方を推薦してほしいです。1つの案として、中部学院大学の学生にスポーツ推進委員になってもらい、若い力で関市のスポーツを盛り上げてほしいと考えています。もう1つ、「はもみんはつらつウォーキング」はコロナ禍で中断し、参加者の意識も変わり、それぞれの地域でウォーキングする人が増えていることもあり参加者が減少しています。でも前は盲目の方が参加したりしており、市民に関市の四季折々の自然を楽しんでほしいので、継

続してほしいです。

委員：ウォーキングの担当者として申し上げます。現在は1年のうちほとんどが暑いこと、それとクマの問題があります。50人参加した先週のウォーキングは、クマの被害を避けて街の中で公園を巡り歩きましたが、交通量があるうえ歩道がなく危険でした。我々も目標達成に向け知恵を絞っていますが、そういった時代による苦勞もあります。

会長：ありがとうございます。スポーツ推進委員の活動は、年間延べ活動人数の数値だけでは表せない、一生懸命に質の向上を狙って続いているというお話だと受け止めます。私も何年かスポーツ協会とお付き合いをさせていただいており、スポーツ推進課の皆さんのご尽力を知っています。そのことをもっとアピールしていきたいと思います。数値の下に、力を入れた点やPRする点についてのコメントを加えると、市民の理解につながると 생각합니다。

委員：私は少年団に関わっています。支えるという観点から、指導者数の目標を立てたと思いますが、やはり一番の悩みは、皆さんと同じで、子どもの人数の減少傾向に歯止めがかからない実情です。指導者数を支えるのは大事なことです。まずはスポーツ少年団の加入者を増やすことが重要です。新年度に、各学校に案内のチラシを配布しますが、年に一度きりなので、効果が限定的だと思います。私は硬式テニスの少年団に関わっていますが、野球やサッカー、バレーボールなどチームスポーツの場合は学校単位である程度集められますが、そうでない場合は、その競技が好きな子は興味を持ってくれますが、人数は少ないです。たまたま私は関・美濃・郡上の3市の協議会の会長をしているので、他地域との交流戦を組むことなどは以前からしています。どの市町村も関市と同じで、年々団員数が減っているそうです。少年団の数を増やし、なおかつ指導者の数を増やし、質を向上させることをテーマに、毎年の研修を実施していますが、研修の参加人数も増えません。少年団のPRを、少年団の自助努力だけでなく、行政からもしただけのような仕組みがあると、団員数増加につながると 생각합니다。

会長：本部長として捉えているのは、子どもの数の減少と、PR不足の2つの点だということでしょうか。PR不足をサポートしてほしいというご意見ですね。ありがとうございます。

委員：総合型地域スポーツクラブに所属しているので、まず支えるというところの6ページの数値目標が上がるように努力しようと思います。また実際の人数はどのくらいなのか興味があります。ただ、地域クラブが立ち上がったことにより、子どもたちが生涯続けられるスポーツは増えると思います。限られた部活動の中で選んでいたものが、地域にとらわれず自分の好きな種目を選べるようになることで、生涯スポーツにつながると 생각합니다。今回は事業計画の点検ですが、令和4年時にはほとんどなかった地域クラブなどの新しい事案が増えたことで、目標に近づいていると思います。またスポーツ協会が私が担当しているスポーツ講演会については、目標である累計1,000人に対し現在は780人なので、講師選びを吟味し目標達成を目指します。また、「する」「整える」につながると 생각합니다。かわせみスタジアムの3種公認取得とか、アリーナの改修により、参加者なども増えると思いますし、スポーツをする人も増えてくると思うので、そういったところを整えていくことを市に期待します。また、「見る」のところでは

口が続いてはいますが、3種公認を取ることで、県大会を見に行く人が増えたり、合宿にスタジアムやアリーナを使うケースも増えると思うので、中学校・高校に周知を図ることも必要だと思います。余談ですが、生涯スポーツということで、健康マージャンが総合スポーツクラブでも流行っています。指を動かしながら頭を使い、いろいろな人と情報交換など交流ができるということで、板取ふれあいまちづくり委員会では、全自動を3卓使っているほど人気だそうです。

委員：突飛なことを言うようですが、「支える」「見る」「ボランティア」「見学を増やす」という視点から、関市はV字型の地形のウイングの真ん中で競技会が行われることが多く偏りがあるので、中心部以外の地域で実施することにより、見ることやボランティアの楽しさを共有でき、スポーツ人口の増加が期待できると思います。移動などの困難はあると思いますが、2回に1回は中心部以外の地域で実施するなど、イベントの移動を提案します。

委員：最近、全国的にモルックが流行りだしています。今まで私たちスポーツ推進委員は市の方針に沿った計画を立ててやってきましたが、ようやく今年度、モルックの市民大会を市内各地で行う予定です。板取など周辺の地域を盛り上げていこうと思います。市の補助はないので、私が各方面に協賛を求めて回ります。

委員：ぜひ市の補助をお願いします。

委員：それともう1つ、資料52ページで、たまたま何年か前にこれを見て、武芸川でバスケットボールを推進していることを知り、実行委員会の代表者に聞いたところ、その方も知らないということでした。こういった資料に載るのであれば、補助金の申請などの必要もあるので、地域の人に周知してほしいです。それと、ウォーキングでアンケートを取ると、広報を見て参加する方が一番多いです。スポーツ推進委員会のホームページでも告知していますが、やはり広報のスポーツ欄を充実させてほしいです。

会長：スポーツ欄の拡充は推進課にとっては負担増になりますか。

事務局：全く負担ではないのですが、広報のルールで、同じ記事を複数回載せないとか、内容は日時や連絡先など必要な情報のみ掲載することになっているので、PR文章などを入れることはできないのが実情です。

委員：締め切りも早いですね。

事務局：2か月前です。

委員：先ほど会長もおっしゃったように、早い段階では参加人数もわからないので内容を決められないところがあります。

事務局：これまでは、詳細が未定の場合は未定部分を黒塗りで掲載していましたが、今後

はすべて決まってから掲載することになりました。

委 員：それはなぜですか。こういう指摘がある以上、改善する必要があるのではないかと思います。

委 員：インスタグラムとかホームページの２次元コードは載せてもいいですか。

事務局：それは載っていると思います。

委 員：広報はお金がないのでそうなのですか。過去にとらわれず、市民のためになることを実行してほしいです。

会 長：地域スポーツブランド化につながるイベントで、例えば、元旦のサッカーがあります。３０年、４０年も続いている一大イベントですが、それは地域スポーツブランドにはあたらないのですか。

事務局：他の市民大会と同じ扱いになっています。資料の１１ページに７年度の実績がありますが、地域のブランドというよりは、ゴルフ、市駅伝、ゲートボール大会などと同列の市民大会の扱いです。

会 長：市民大会を定着させることが一番いいのではないかと思います。ゴルフやサッカーを長く楽しんできた人たちが、世代が入れ替わっても続けて運営している大会をブランドとして認めていってはどうでしょうか。自主運営できているので、ブランドの定義などの考え方の枠を広げてはどうかと思います。

委 員：先ほど話に出たスポーツ推進委員の選出方法などの機会がありましたら、ほとんど支部長が出てくるので、その辺を利用して申し上げたいと思います。あとは、支えるスポーツの６ページ、スポーツ少年団の指導者の減少については、子どもが減っていることもあります。先ほど出たようにウォーキングのイベントなどは２００人ほどの参加者があります。工夫すればもう少し集まるのではないかと思います。私がいる倉知ふれあいセンターにも、休みの日には結構子どもが遊びにくるので話を聞くと、いろいろなスポーツを知らない子どももいます。周知の仕方次第でスポーツ少年団の参加者も増えるのではないかと思います。

会 長：私が数値として大事にしてほしいのは、冊子の資料７ページの「成人が実施したスポーツの種類」で、１０代から７０代までの６０％の人がウォーキングをやっているという実績です。その関連で今年４月か５月のプラザの取材がスポーツ協会にあった際に、市民１万人ウォーキングのようなのをやりたいと突如として考えたのですが、実は全然突如ではなくて、すでに１万人を超える市民が週１回ほど歩いていることがわかっています。もしかしたら実はもう２万人、３万人もの人がウォーキングしているかもしれず、健康づくりに対する市民の意識はかなり高いことが、この数値に表れています。資料では小学生でも歩いていることが見えており、全世代を通してウォーキングは浸透しています。これは日本中の現象だと思うので、全国の先頭を切って「ウォーキングのまち・関市」のように掲

げてはどうかと思います。意味のある実態把握ができていますので、努力して数値を上げようとするよりは、できていることをうまくアピールする発想で捉えるほうが、頑張っている事務局の皆さんの評価と実施する施策が一致してくるという観点で、効率がいいのではないかと思います。私はスポーツ協会に関わっていますが、うまく連携・連動して、イベントを立ち上げるなど市民にアピールし、それをさらに外に向けて、1万人ウォーキングのできる街であることをアピールしていくことで、スポーツ推進課の皆さんの日頃の成果の一部が位置づけられ、市民の意識のさらなる向上にもつながると思います。それでは一通り皆さんから意見を聞きましたが、皆さんからいただいた意見を事務局に反映していただくことをお願いして、関市スポーツ推進計画の点検の評価については、事務局からの提案を承認いただけますでしょうか。ありがとうございます。皆様にうなずいていただきましたので、第1の議案の点検と評価については、承認をいただきました。それでは2つ目の議事に移ります。関市スポーツ推進計画の中間見直しについてお願いします。

事務局：（第2期関市スポーツ推進計画（中間見直し）について説明）

会 長：委員の皆さん、ご意見があればお願いします。

委 員：地域クラブのところで、「参加費の補助があり、安い費用で参加できます」とありますが、参加費への補助があるのではなくて、地域クラブに補助金が出ているということだと思うのですがどうですか。

事務局：表記について学校教育課と相談します。

会 長：他にありますか。

委 員：一般用のアンケートは、どのような方法で行われますか。

事務局：一般用については、市内の16歳以上の方から無作為に2,000人を抽出し郵送、返信用の封筒またはweb回答になります。

会 長：他にありますか。アンケートは学校教育課との連携も取れているようなので確認ですが、5ページの「あなたはクラブ活動に参加していますか」という質問のクラブ活動というのは、小・中学生に対し地域クラブのことを指すのか、それ以外のクラブがあるのかがわかりにくいので、何か工夫が必要だと思います。

事務局：学校教育課の助言いただいて、この表記になったものですが、再度確認します。

会 長：意識調査について他にはよろしいですか。それでは、こういう形で意識調査を行って、これから先々の関市スポーツ推進計画の参考とする、あるいは実績評価につなげるということで、今の提案をお認めいただけますか。ありがとうございます。では、2つの議事において提案を認めていただいたので、これでよしとします。ありがとうございます。

（閉会）